

【事例 1「あの日、」学びのポイント】

- 前日の天気予報で天気が悪い予報が出ていた。
- 当日海についた時、晴れていたが、風が強く、波が少し高かった。
- 海岸には、遊泳禁止であることと過去に死亡事故が発生した場所であることが看板に書かれていた。また、泳いでいる人は、一人もいなかった。
- お父さんとお母さんは少し不安になったが、長い時間をかけてせっかく海に来たということもあり、注意していれば大丈夫だろうと思った。
- 一郎くんは早速一人で海に入り、楽しそうに泳ぎ始めた。近くではお母さんが一郎くんを見守っている。海の中から飲み物をちょうだい！と声をかけ、お母さんは、飲み物を取りに行った。
- 岸に向かって泳いでいるはずなのに、体がどんどん岸から離れて行った。一郎くんは、あっという間に、岸から遠く離れた沖へ流された。

【事例 2「ともだち」学びのポイント】

- 校長先生は「さあ、明日から夏休みに入りますが、近くの海岸は遊泳禁止になっているのはみんな知っていますね？とても危険です。海水浴に行ってはいけませんよ！」と注意された。
- その日の帰り道、仲良しのタロウくんとタカシくん「ねえねえ！明日三人で海に行かない？ゼッタイ楽しいよ〜！」とサトシくんは言った。
- 三人で海水浴に行く約束をした。
- 次の日、よく晴れていましたが、風が少し強い日だった。
- 三人は天気予報を見ることもなく、お父さんお母さんにも、どこに行くと言わずに、海岸に出かけた。海にはだれもいなかった。校長先生が注意したように、海岸の入口には「遊泳禁止！この海で泳いではいけません！」と書かれた看板が立っていた。三人は看板を気にすることもなく、海で泳ぎ始めた。
- サトシくんは、「もう一度海に入って、タカシくんをさがそうよ！」と言った。